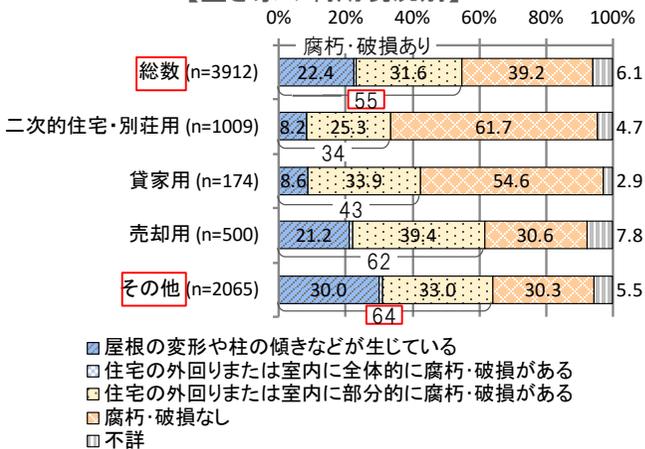


- 空き家の5割超は腐朽・破損がある。別荘や貸家・売却用等以外の「その他」の空き家では、腐朽・破損がある割合が6割を超える。
- 空き家の約4割は、最寄りの鉄道駅から2,000m以上離れているが、貸家用の空き家の約半数は、鉄道駅から1,000m未満に立地。
- 所有世帯の約7割は、空き家まで1時間以内の場所に居住。貸家用やその他の空き家を所有している世帯は、比較的近くに居住している割合が大きく、1時間以内が8割を超える。
- 空き家の管理頻度は、「月に1回～数回」の割合が最も大きく約4割。二次的住宅・別荘用の空き家の利用頻度についても「月に1回～数回」の割合が最も大きく約4割。

※本調査は、平成30年住宅・土地統計調査における「世帯が所有する空き家」を対象に実施。複数所有の場合は、代表的な1住宅について回答・集計。

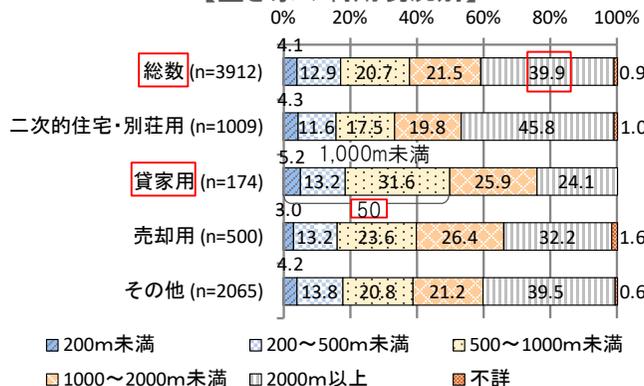
(1) 腐朽・破損の状態

【空き家の利用現況別】



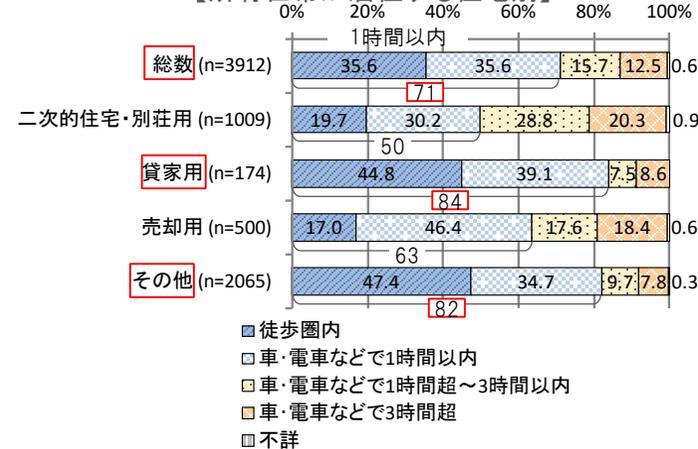
(2) 最寄りの鉄道駅からの距離

【空き家の利用現況別】



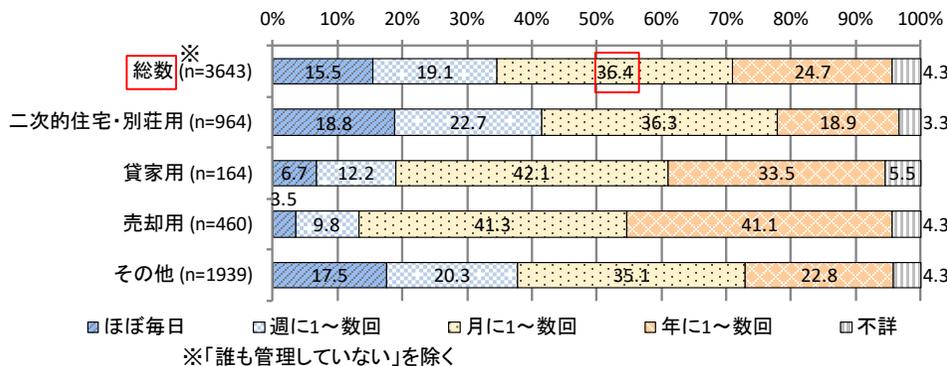
(3) 所有世帯の居住地からの所要時間

【所有世帯が居住する住宅別】



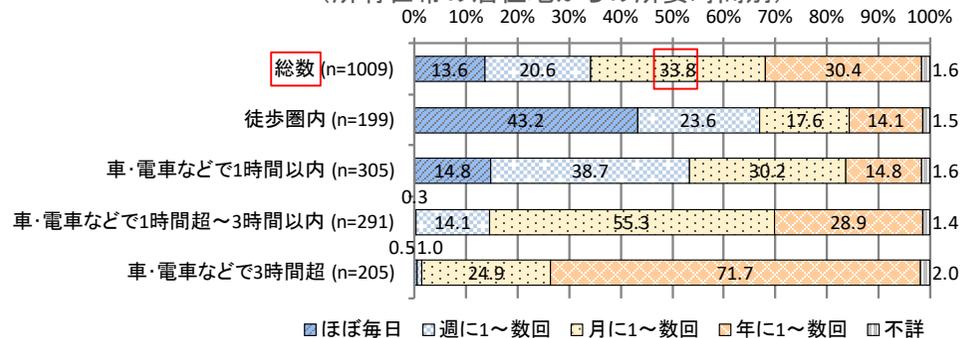
(4) 管理頻度・利用頻度

【管理の頻度(利用現況別)】



【二次的住宅・別荘用の空き家の利用頻度】

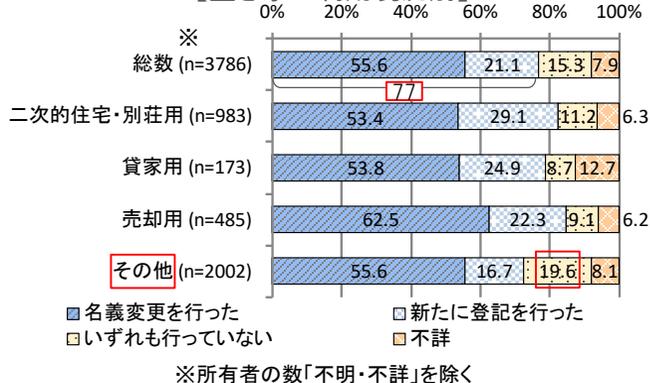
(所有世帯の居住地からの所要時間別)



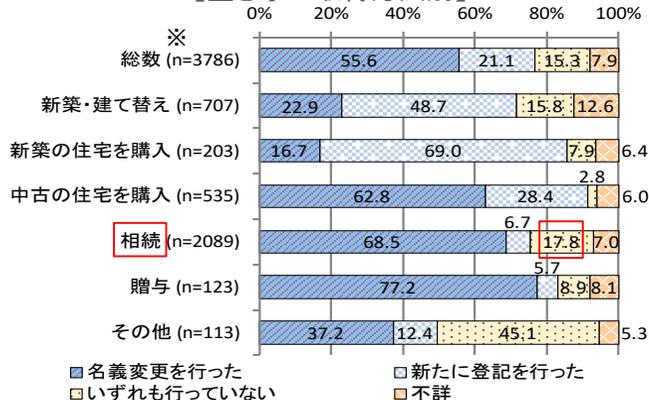
- 空き家を取得した際に、登記の名義変更や新たに登記を行った割合は約8割。
利用現況がその他の空き家や、相続により取得した空き家は、「いずれも行っていない」割合が約2割見られる。
- 今後5年程度の利用意向は、「空き家にしておく」が約3割、「賃貸・売却」や「セカンドハウスなどとして利用」がそれぞれ約2割。
- 賃貸・売却の場合の課題は、「買い手・借り手の少なさ」「住宅の傷み」「設備や建具の古さ」の順になっている。
- 寄付・贈与の意向があるもののうち、一定の費用負担を伴っても寄付・贈与をしたい人の割合は、約4割であった。
- 空き家にしておく理由は、「物置として必要」「解体費用をかけたくない」「さら地にしても使い道がない」の順になっている。

(1) 登記または名義変更

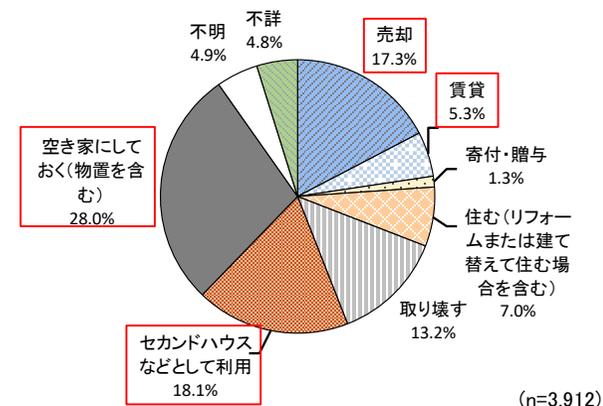
【空き家の利用現況別】



【空き家の取得方法別】

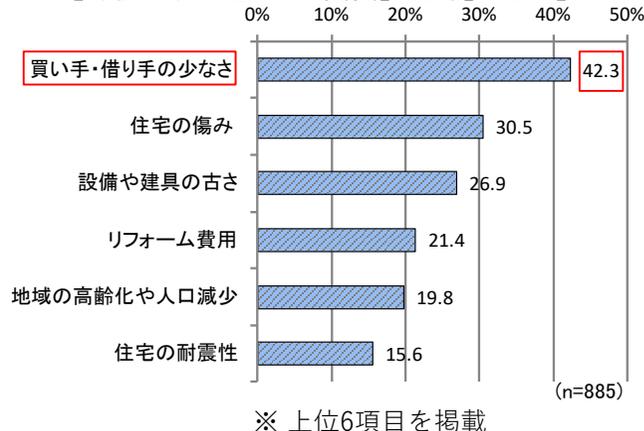


(2) 今後の利用意向



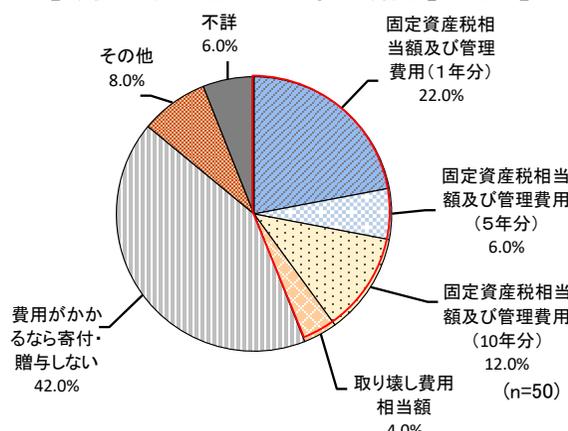
(3) 賃貸・売却する上での課題

【今後の利用意向が「賃貸」「売却」のもの】



(4) 寄付・贈与のために支払ってもよい費用

【今後の利用意向が「寄付・贈与」のもの】



(5) 空き家にしておく理由

【今後の利用意向が「空き家にしておく(物置を含む)」のもの】

